



2014年 特裁コシヒカリのインセンティブ

■ 山間地は食味を 平坦地は整粒を ■

平成27年度 特別栽培コシヒカリ

目標面積 500ha

単位:1俵あたり

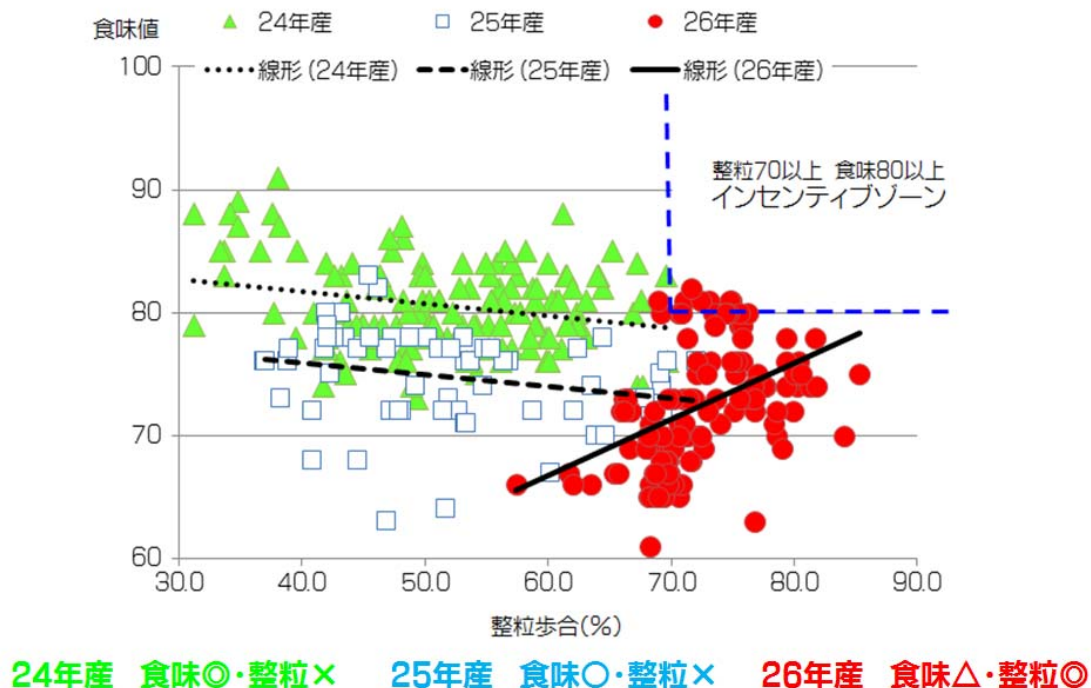
品種	整粒判定 70%以上		左記以外	2等
	1等			
	整粒・食味値	食味値 85 以上	食味値 80 以上	
特別栽培コシヒカリ	15,000円 概算	14,000円 概算	慣行コシヒカリ比 300円 加算	

取組要件

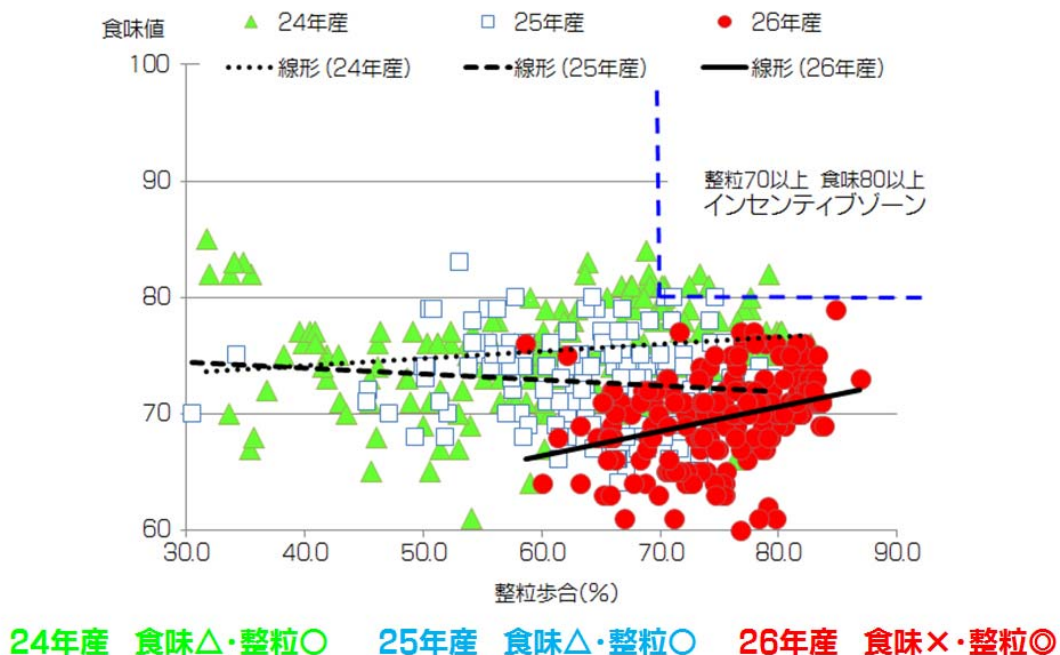
1. 福井県認証区分③もしくは認証区分④の栽培
2. 整粒歩合が70%以上且つ食味値80以上の場合、上記概算金を適用し支払い
3. 対象とならなかった場合は、後に慣行コシヒカリ比300円加算して支払う

どうすれば、インセンティブのコシヒカリが作れるのか

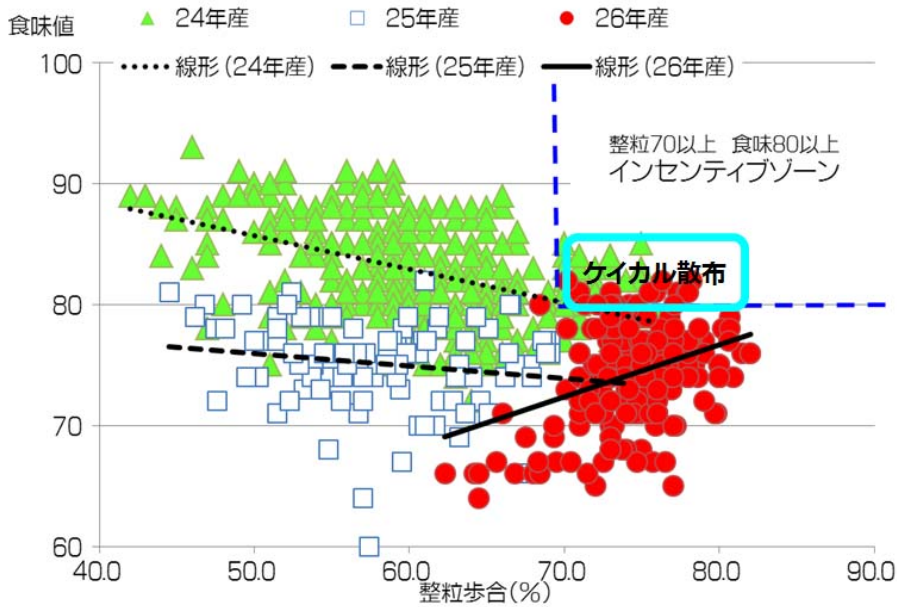
整粒値と食味値の傾向（東部地区：平坦地）



整粒値と食味値の傾向（西部地区：山間地）



整粒値と食味値の傾向（南条地区：中間地）



24年産 食味◎・整粒△ 25年産 食味△・整粒× 26年産 食味△・整粒◎

座談会、地区別説明会での意見

- ① 特裁肥料(50%有機)一発といいながら穂肥をやらないといけないのは何故？
- ② 一発で済ませられる商品があれば、特裁に取り組めるのに……
- ③ ホームセンターや商系の肥料メーカーのものは穂肥をしなくてもいい

幼穂長 2 mm

特裁こだわり 278
55 kg/10a (窒素 6.6)

1.7 不足

穂肥 1 回目 こだわり有機 712		穂肥 2 回目 こだわり有機 712			
地帯	適正	やや過剰	地帯	適正	やや過剰
平坦地	15kg (1.0)	10kg (0.7)	平坦地	15kg (1.0)	10kg (0.7)
山間地	10kg (0.7)	7kg (0.5)	山間地	10kg (0.7)	7kg (0.5)

強粘質土壌が多い山間地では穂肥窒素量を 1.4kg/10a に設定 (TOTAL 3.7kg)

- ④ 規定量どおり入れたら倒伏してしまった、食味が低いのは何故

近年は山間地でも温暖化にともなう田植え時期の繰り下げから、初期生育は確保できるため、一発肥料の移植直後の速効性窒素を削減し、遅行性窒素を増やすことで、穂肥の散布を省けないか



山間地用一発肥料（県展示圃実施済）

商品名	規格	対象作物	成分内容			有機	備考
			窒素	リン酸	カリ		
特裁コシ一発297	20kg	特裁コシ	窒素	リン酸	カリ	53.6%	26年県展示圃実施 (南越前町 脇本)
			12.5	9.0	7.0		

特裁コシ一発297 60kg/10aの場合の各ステージ毎の窒素供給量

全窒素量	即効性窒素	緩効性窒素	遅効性窒素
7.5kg	2.20kg	2.60kg	2.70kg
	0~30日	31日~60日	61日~

※土壌条件・気温により変化します。

山間地限定 特裁コシ一発297の特徴



- ① 即効性、緩効性、有機態窒素を一つにしているため、比重が安定
- ② 硬度が高く、粉が出にくい
- ③ 山間地においては、穂肥の散布回数、散布量を減らすことが可
※稲の生育状況で判断

インセンティブを目指して

その年々の気候に左右されるが、平坦地では

- 猛暑で厚い年は痩せ米傾向
栄養凋落状態で白未熟粒が多く、タンパク含有量が低くなる(食味は高い)
- 温度が低く比較的涼しい年は米の充実度が高い
白未熟粒の発生は極端に少なく、後半まで肥効が続くためタンパク含有量は並

高温登熟では整粒歩合の高い米の生産は不可能

👉 整粒を高くするためには……
気温が低くなったところで登熟させ、白未熟粒を抑制

👉 食味を上げるには……
山間地でも穂肥を全くやらずにタンパクをコントロールするのではなく
**穂肥の窒素量の見直しと稲が登熟期に窒素を十分に吸収
できるよう、ケイ酸の補給や深耕の合わせ技で受光を良くし、
根の量や張りを広げておく**

管内土づくり率平均 33% 南条地区の土づくり率 56%